

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	麻生区第1グループ(百合丘・東百合丘・千代ヶ丘)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H26		H27		H26		H27	
	1 百合丘子ども文化センター ①年間延べ利用者数	33,174人	32,879人	②年間延べ利用団体数	410団体	491団体		
2 百合丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	446人	502人	②年間延べ利用者数	21,265人	25,389人			
3 西生田小学校わくわくプラザ ①登録者数	405人	422人	②年間延べ利用者数	20,560人	19,641人			
1 東百合丘子ども文化センター ①年間延べ利用者数	25,802人	23,156人	②年間延べ利用団体数	566団体	611団体			
2 長沢小学校わくわくプラザ ①登録者数	277人	293人	②年間延べ利用者数	13,347人	16,467人			
3 南百合丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	367人	352人	②年間延べ利用者数	14,397人	13,701人			
1 千代ヶ丘子ども文化センター ①年間延べ利用者数	25,740人	27,156人	②年間延べ利用団体数	373団体	345団体			
2 金程小学校わくわくプラザ ①登録者数	245人	232人	②年間延べ利用者数	9,327人	8,175人			
3 千代ヶ丘小学校わくわくプラザ ①登録者数	373人	330人	②年間延べ利用者数	15,679人	13,147人			
収支実績	単位:円							
1 収入								
指定管理料	164,756,022							
2 支出								
人件費	143,673,247							
管理費	11,512,569							
事務経費	8,180,344							
その他経費	4,698,114							
合計	168,064,274							
3 差引	-3,308,252							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	3	6
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 概ね、事業計画及び仕様書のとおり事業が実施された。百合丘子ども文化センターの特徴としては、宿泊事業・文化行事・スポーツ行事をバランスよく実施し、子どもの多様な体験・参加の機会を促す取組が行われている。また、乳幼児親子向けの事業の実施とともに、課題を抱えた中高生を対象とした事業を実施するなど、子どもの成長に合わせた幅広い年代の健全育成が図られる取組が行われた。 東百合丘子ども文化センターの特徴としては、「夏フェス」や「冬まつり」、「ハッピー・ハロウィン」など、運営協議会の協力を得て実施した取組が行われた。 千代ヶ丘子ども文化センターの特徴としては、毎月行っている子ども運営会議及び運営協議会の意見を取り入れ、「ちよこぶんまつり」・「ちよこぶんおそうじ」・「新春ゲーム大会」を三大行事として実施し、地域と一体となって利用者のニーズに基づいた活動が行われた。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	4	4
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
<p>(評価の理由) ホームページを作成し、インターネット利用者に利用案内や活動を周知するとともに、かわさきFMや地域広報紙への掲載などにより、PRを行った。また、各館で毎月たよりを発行して、近隣の小学校や関係機関へ配布し、事業内容の周知を行った。特別な配慮を必要とする児童への対応のため、児童の個別ノートを作り、保護者やスタッフとの情報共有を図るとともに、障害児タイムケアモデル事業を実施している関係機関との連携を充実した。また、巡回相談員の巡回、事例検討会等を実施し児童一人一人の状況を把握した。</p> <p>子ども文化センター子ども運営会議・子ども文化センター運営協議会・わくわくプラザ保護者懇談会を定期的に開催し、子ども・地域のニーズを把握するとともに、保護者と日常的にコミュニケーションを図り、ニーズの把握を行った。また、利用者へのアンケートボックスを常設し、不特定多数の意見・ニーズの把握を行った。地域のまつりである「あさお子育てフェスタ」に共同で子ども文化センターの無料工作ブースを設置し、積極的に子ども文化センター事業を地域にアピールし、地域社会の活性化に向けて連携した取組を行った。子ども文化センターでは、運営協議会と協働した地域連携や、麻生区役所や社会福祉協議会、地域子育て支援センター等の関係機関・関係団体と協力した事業を実施した。わくわくプラザでは、小学校との連携を密にし、学校行事への日常的な参加とともに、学級担任との情報交換を行った。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
	川崎市公契約条例を遵守しているか				
職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8	
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。また、業務評価プロジェクトを立ち上げ、内部で自己評価をするための取り組みを推進し、研修受講後は会議等でフィードバック情報共有を図るなど、研修の効果を定着させる取組を行っている。個人情報等の取扱については、個人情報や電子データは鍵のかかる保管庫に保管されている。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4	
	災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか				
	災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか				
<p>(評価の理由) 利用者が安全に利用できるようマニュアルを作成し、施設・設備の安全点検を実施するとともに、迅速に修繕を行うなど環境整備に努めた。地域の「子ども安全パトロール隊」等の地域ボランティア防犯活動に積極的に参加することによって、近隣の学校、警察及び防犯に関する地域ボランティアとの連携を図った。また衛生管理についてもマニュアルを整備し、利用者の安心・安全に繋げた。スタッフへのインフルエンザ予防接種費用を補助することにより、スタッフの予防接種を促進し、利用者等への感染リスクを軽減させる措置を取っていた。食物アレルギー対応の研修については未受講の職員の受講を義務付け、臨時職員の受講も促進した。アレルギー児にも対応した非常食及び保存水を配備した。竜巻や津波の対応について館内会議で勉強会を実施した。また、地域教育会議主催の防災訓練に参加し、地域との連携を深めた。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

地域との連携においては、子ども文化センターの事業を地域の関係機関や団体に積極的にアピールしており、地域の中で子ども文化センターの認知度を深めていく努力が見受けられた。事業実施や防犯活動においても、運営協議会を中心として、地域と連携した事業展開とともに、高齢者と小学生の交流事業や小学生と中学生の交流事業など、多世代交流や異年齢交流を意識した事業展開が見受けられた。

全児童対策として、わくわくプラザにおいては、特別な配慮を必要とする児童について、個々の児童ごとの対応・配慮に様々な工夫を行っていることが見受けられた。

また、法人全体の長年にわたる青少年分野におけるノウハウを活かし、職員の人材育成に取り組んでいる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、子ども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフのスキル向上に努め、利用者にとって各施設がより居心地の良い場となることを期待する。